

校訓・校章・校歌・制服の方向性について

1 校訓の方向性について

論 点

校訓の方向性として、校名案が「三本木農業高校となった場合」と「三本木農業高校以外となった場合」に場合分けした上で、それぞれ「新たな校訓を制定する」、「統合対象校の既存の校訓を引き継ぐ」、「校訓を制定しない」のどれが望ましいかという視点で協議する。

【3校の校訓の状況】

学校名	校 訓	意 味（大辞林第三版より）
十和田西高校	自 律	他からの支配や助力を受けず、自分の行動を自分の立てた規律に従って正しく規制すること。
	進 取	従来 of 慣習にこだわらず、進んで新しいことをしようとする事。
	敬 愛	尊敬と親しみの気持ちをもつこと。
六戸高校	自主自律	他人や周りからの干渉や制約などを受けず、自発的に自分自身で考えて行動し、自分自身の規範に従って己を律すること。
	誠実勤勉	偽りがなく、まじめで一生懸命に精を出して励むこと。
	心身健康	心や体がすこやかで、悪いところのないこと。
三本木農業高校	自主協同	自主：他人の保護や干渉を受けず、自分の判断で行動すること。 協同：複数の個人や団体が心や力をあわせて同じ目的、共通の利益を守るために事にあたること。
	自律責任	自律：他からの支配や助力を受けず、自分の行動を自分の立てた規律に従って正しく規制すること。 責任：自分が引き受けて行わなければならない義務。
	質実剛健	飾りけがなくまじめで、たくましく、しっかりしていること。
	言行一致	言葉に出した事と、その行動が同じであること。

【校訓の方向性】




校名が三本木農業高校となった場合	校名が三本木農業高校以外となった場合

2 校章の方向性について

論 点

校章の方向性として、校名案が「三本木農業高校となった場合」と「三本木農業高校以外となった場合」に場合分けした上で、それぞれ「新たな校章を制定する」または「統合対象校の既存の校章を引き継ぐ」のどちらが望ましいかという視点で協議する。なお、新たな校章を制定する場合は、その制定方法についても協議する。

【3校の校章の状況】

十和田西高校	六戸高校	三本木農業高校
		
校章制定年：平成元年	校章制定年：昭和56年	校章制定年：明治38年 (大正時代に一部変更)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 四方の広がりは無限に伸びゆく可能性を表す。 ■ 上部は、八甲田山の「八」の字を表す。 ■ 下部は、「W」形でWest（西）を表す。 ■ 横の凹部は十和田湖の湖を表す。 ■ 凹部をつなぐと十字形となり、外輪と合わせると十和田湖の「十」と「田」となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各戸が互いに手を握り合い大きく発展することを表現して、「戸」を図案化した六戸町の町章に「高」の字を配置し、町章に込められた願いと同じく、六戸高校生徒の連帯と団結、学校の発展、本校生徒の各界への飛躍を願ったもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 青森県畜産学校時代の学科である「農学科」「畜産科」から、稲穂は農学科を、クローバーは畜産科を表し、その中央には畜産学校の「畜」の字を模していた。 ■ 大正8年に県立三本木農学校と改称され、「農牧科」「獣医科」「養蚕科」が設置された。その際「畜」の字を外し、△を組み入れた。△は絹の三角断面形状を模した図柄で養蚕科を表している。爾来、稲穂、クローバー、絹の断面の3つで構成された校章が現在に受け継がれている。

【校章制定の方法（他県等の事例から）】

- ①公募による制作
- ②デザイナー等への委託による制作
- ③学校関係者（生徒含む）による制作
- ④その他

【校章の方向性】

校名が三本木農業高校となった場合	校名が三本木農業高校以外となった場合

3 校歌の方向性について

論 点

校歌の方向性として、校名案が「三本木農業高校となった場合」と「三本木農業高校以外となった場合」に場合分けした上で、それぞれ「新たな校歌を制定する」または「統合対象校の既存の校歌を引き継ぐ」のどちらか望ましいかという視点で協議する。なお、新たな校歌を制定する場合は、その制定方法についても協議する。

【3校の校歌の状況】

十和田西高校	六戸高校	三本木農業高校
作詞：本間 茂夫 作曲：佐々木 孝男 校歌制定年：平成元年	作詞：此島 正年 作曲：中村 卓三 校歌制定年：昭和56年	作詞：彌富 破摩雄 作曲：小松 耕輔 校歌制定年：昭和13年
甲田嶺遙か雲白く 風薫る野の緑濃し 恵みの大地拓きたる 先人の啓示を旨として 真理を究め日に励まん 若き友抛る 十和田西高	みちのくの果て 広き野を 世々に人びと 開き来て 今うるわしき わが郷土 この学びやに 我らあり 祖先のこころ 胸にしめ わが力もて わが道を いざ開き治めん	太平洋をあかねに染めて 登る朝日の直刺す所 希望みなぎる三木野が原を 占めて立ちたり我が学舎は (位置)
幽邃十和田湖青く 岩稜しぶき流れ澄む 永遠に遷らぬ故郷の ああうるわしの情緒もて 善美を求め日に励まん 篤き友抛る 十和田西高	六戸の原 ひろびろと 夏はみどりの さわやかに 冬八甲田 雪しろく 学びの窓に かがやけり 師のみちびきを 仰ぎつつ 誠のこころ ひとすじに いざ勉め励まん	入っては書に心を静め 教のままに智徳を研ぎ 出でては土に親しみ集ひ 伸びゆく命培ひ生す (日課)
	十和田のうみの 水きよく 奥入瀬川を 下り来て 恵みゆたかに わが郷土 学びの庭を うるおせり 友のなさけに むつびつつ 心ゆたかに すこやかに いざ生い立ちゆかん	十和田の水の絶ゆる事なく 奥入瀬川のただ一筋に 国の瑞穂の其の名に負ひて 拓き進むは我等が使命 (使命)
		天地と続く我日本の 国の光は世界を照す いざや若人思ひをこめて 学び励まむ皆諸共に (理想)

【校歌制定の方法（他県等の事例から）】

- ①公募による制作
- ②作曲家等への委託による制作
- ③学校関係者（生徒含む）による制作
- ④その他

【校歌の方向性】

校名が三本木農業高校となった場合	校名が三本木農業高校以外となった場合

4 制服の方向性について

論 点

制服の方向性として、校名案が「三本木農業高校となった場合」と「三本木農業高校以外となった場合」に場合分けした上で、それぞれ「新たなデザインとする」、「統合対象校のデザインを引き継ぐ」、「制服を制定しない（私服対応）」のどれが望ましいかという視点で協議する。

【3校の制服の状況】

十和田西高校	六戸高校	三本木農業高校
<p>■冬服</p> 	<p>■冬服</p> 	<p>■冬服</p> 
<p>■夏服</p> 	<p>■夏服</p> 	<p>■夏服（儀式的行事）</p> 
		<p>■夏服（普段）</p> 

【制服の方向性】

校名が三本木農業高校となった場合	校名が三本木農業高校以外となった場合